

報告第31号

令和元年度公益財団法人宇治市野外活動センター経営評価の  
報告について

宇治市の出資法人への関わり方の基本的事項を定める条例第5条  
第1項の規定に基づき、令和元年度公益財団法人宇治市野外活動セ  
ンター経営評価について、別紙のとおり報告する。

令和2年9月16日提出

宇治市長 山 本 正



2 公財宇野活 49 号  
令和 2 年 5 月 31 日

宇治市長 山本 正 様

宇治市西笠取辻出川西 1 番地  
公益財団法人 宇治市野外活動センター  
代表理事 杉本 厚 夫



宇治市出資法人自己評価報告書の提出について

宇治市の出資法人への関わり方の基本的事項を定める条例第 4 条第 2 項に基づき、次のとおり報告します。

## 宇治市出資法人自己評価報告書

## 1. 法人の概要

団体名	公益財団法人 宇治市野外活動センター	設立年月日	平成11年3月24日
公益財団法人への移行年月日			平成23年4月1日
基本財産	50,000千円 (移行前50,000千円 うち市出えん・出資額 50,000千円 出資比率100%)		
設立目的	宇治市総合野外活動センターの管理・運営を行うとともに、野外活動に関する事業を通じて、青少年の豊かな感性と責任感を育み、人々の学ぶ喜びを増進し、人と人との連帯感を高めることにより、生涯学習の推進を図り、もって新しい文化と活力ある地域社会の創造に寄与することを目的とする。		

## 2. 役職員等の状況

		平成29年度			平成30年度			令和元年度		
		市職員	市OB		市職員	市OB		市職員	市OB	
役員等	常勤	1	0	1	1	0	1	1	0	1
	非常勤	12	1	4	12	1	4	12	1	4
職員	管理職	1	0	0	1	0	0	1	0	0
	一般職	10	0	0	10	0	0	10	0	0
	計	11	0	0	11	0	0	11	0	0

\*役員等と職員を兼務している場合はそれぞれ1人でカウントしている。

## 3. 事業の概要

主要事業名	事業内容
活動支援事業	総合野外活動センター利用者の円滑な活動を支援するため、天体観察での天文ボランティアの手配や創作活動の指導・助言を行うとともに、農業体験やふるさと体験のできる活動を紹介し、その実施について調整を図った。
野外活動奨励事業	参加費無料のイベントを開催し、市民が気軽に野外活動に親しめる機会を提供するとともに、幅広い層に総合野外活動センターの利用が促進されることを目指した。また、活動プログラムの充実を図るための最新情報の収集や、ホームページ、SNSでの発信を行った。
活動体験事業	丁寧なサポートと充実したプログラムを提供するために、定員を設けた有料イベントを企画・実施し、生涯学習の推進を図った。
宇治市総合野外活動センター管理運営事業	総合野外活動センターの管理運営を宇治市より指定管理者として受託し、施設の管理運営業務を行った。

#### 4. 財務状況

##### 1) 正味財産の状況

(単位：円)

年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
収 益	135,228,359	143,491,902	140,733,675
収益事業収益等	4,892,994	4,977,384	5,255,731
市支出金	130,335,365	138,514,518	135,477,944
人件費	69,765,864	77,087,433	73,584,720
事業費	60,569,501	61,427,085	61,893,224
費 用	135,712,186	138,825,611	140,255,107
人件費	70,155,264	73,252,533	73,587,060
事業費	65,556,922	65,573,078	66,668,047
当期経常増減額	▲483,827	4,666,291	478,568
当期正味財産増減額	▲483,827	4,666,291	478,568
正味財産期末残高	46,523,768	51,190,059	51,668,627

##### 2) 貸借対照表

(単位：円)

年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
資産合計	83,895,530	95,038,300	94,127,517
流動資産	12,277,541	15,634,724	11,076,507
固定資産	71,617,989	79,403,576	83,051,010
負債合計	37,371,762	43,848,241	42,458,890
流動負債	12,779,741	15,634,724	11,076,507
固定負債	24,592,021	28,213,517	31,382,383
正味財産合計	46,523,768	51,190,059	51,668,627
基本財産	50,000,000	50,000,000	50,000,000
その他正味財産	▲3,476,232	1,190,059	1,668,627

##### 3) 市財政支出の状況

(単位：円)

年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
補助金	72,395,450	80,130,206	76,489,393
委託料	57,939,915	58,384,312	58,988,551
その他（分担金等）	0	0	0
計	130,335,365	138,514,518	135,477,944
貸付金	0	0	0
借入金残高（期末）	0	0	0
市の債務保証残高（期末）	0	0	0
市の損失補償残高（期末）	0	0	0

4) 主要経営指標

指標	算式	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
人件費比率	人件費計 ÷ 費用計	51.7%	52.8%	52.5%
自己資本比率	正味財産計 ÷ 資産計	55.5%	53.9%	54.9%
流動比率	流動資産 ÷ 流動負債	96.1%	100.0%	100.0%
借入金依存度	借入金残高 ÷ 総資産	0%	0%	0%
借入金返済能力	長期借入金 ÷ (減価償却費 + 税引後利益)	0%	0%	0%

5. 経営評価 (法人自己評価)

視点	評価	コメント
目的適合性	A	近年の社会情勢の変化の中で、自然とのふれあい・自然の中での交流など自然に対する市民の関心や期待が高まりつつあり、総合野外活動センターの果たすべき役割は大きく、より多くの市民に余暇活動や生涯学習の場を提供できるような取組みや、地域振興を兼ねた農業体験イベントを実施するなど、財団設立の目的に合致した施設運営を行っている。
効率性	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 林間学習において市内小学校間の利用調整を行い、施設の効率的な利用に努めた。</li> <li>・ 冬期の利用促進を目的に毎週末にイベントを実施するなど、施設利用増進に努めた。</li> <li>・ 年間を通じて節電・節水を励行し、料金の安い電力会社との契約など経費の縮減に努めている。</li> <li>・ 各イベントについてはホームページからの申込受付や、メールインフォメーション、SNS で情報を発信した。また申込多数のイベントは定員を増やす等、利用客の利便性を高めた。</li> <li>・ 講習会や主催大会を定期開催するなどグラウンド・ゴルフの普及に努め、グラウンド・ゴルフ利用者が前年より増加した。</li> <li>・ 冬期に実施されたボイラー改修工事で大浴場が使用できなかったことや、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、宿泊利用が減少した。</li> </ul>

組織運営 健全性	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職員一人ひとりがコスト意識や施設経営を意識するように心がけ、サービス向上に努めた。</li> <li>・ 公益財団法人として理事会・評議員会・監査は定期、随時に行った。</li> <li>・ 情報公開については宇治市の「宇治市情報公開条例」の趣旨に沿って定めた、「公益財団法人宇治市野外活動センター情報公開規則」に基づき対処している。</li> <li>・ 平成 25 年度に策定した長期運営計画の中間検証を行い、施設運営の成果や課題から今後の施設運営方針を明確にし、計画に沿った事業展開に努めた。</li> <li>・ 開所 20 周年を記念して感謝祭やクラウドファンディング、シンポジウム、記念誌発行といった新規事業に取り組んだ。</li> </ul>
財務 健全性	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公益法人会計基準に基づき適正に処理を行うとともに日常の経理業務にも会計ソフトを導入し、効率化を図っている。</li> <li>・ 基本財産についてはリスクの低い定期預金で確実に運用している。</li> <li>・ 財務状況の透明性をより高めるため、財務状況（貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録等）をホームページ上で公開している。</li> </ul>
総合評価	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指定管理者として合理的かつ効率的な施設運営を心がけ、より多くの方々に施設を利用していただけるよう施設運営に取り組んでいる。</li> <li>・ 市内のみならず市外・府外からの利用者も増えており、ホームページやその他広報活動の成果もあわせて施設の知名度も上がってきている。</li> <li>・ 開所 20 周年を機に指定管理者として健全な経営を持続発展できるよう、さらなる集客、お客様満足度の向上を目指して新たな財源確保や事業の取組等を進めている。</li> </ul>

評価の目安 A：良好である B：ほぼ良好である C：やや課題がある D：課題が多い